

畜産センターが開発した技術、最新の研究成果を発表

1月27日に京都府庁で畜産技術業績発表会が開催され、当センターは畜産経営の向上及び畜産物の安心・安全につながる最新の研究成果を発表しました。

今回は、鶏卵由来のサルモネラ食中毒を採卵鶏に与える飼料(※加工フスマ)で抑制する技術、乳牛舎に簡易に設置できるふん尿分離装置の開発事例や受精卵移植技術、和牛肥育技術、飼料米の保存・給与技術について発表し、大学の先生など助言者からは「他府県では真似のできない立派な内容」との講評をいただきました。今後は、これらの研究成果を府内畜産農家へ積極的に普及します。

※(加工)フスマ・・・小麦の製粉の際に発生する外皮で家畜用飼料として利用。このフスマを当センターの開発した技術で処理したもの。



助言者の質問に答える発表者

乳牛舎の「ふん尿分離装置」で堆肥化処理がスムーズに

搾乳牛をつなぎ飼する牛舎には、ふん尿を舎外へ搬送するバークリーナーという機械が設置されています。しかし、ふんと尿が混ざり合い、泥状で搬送されてしまうため、堆肥化するためには大量の水分調整資材が必要となります。

畜産センターが開発した「ふん尿分離装置」は、既存のバークリーナーに据え付けることができ、装置の上部にあるスクリーンの上をふん尿が通過する際に、モーターで振動させることにより、ふんと尿を分離することができる簡単な仕組みです。堆肥化の工程で水分調整資材の使用量が減るため、処理もスムーズになり、使用しやすい堆肥の生産につながります。

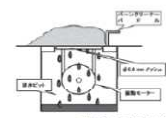
この装置により、乳牛40頭規模で副資材の使用量を年間約30トン(オガクズで約54万円分)減らすことができます。

なお、牛舎にあわせた設計は畜産センターで行いますので、お気軽にお問い合わせください。

バークリーナー(このあたり)に、ふん尿分離装置を据え付けます



装置据付場所の例



装置の構造(断面図)

畜産センター TEL: 0773-47-0301

「農林漁業のうごき」(平成23年なつ号)で
ふん尿分離装置について紹介

家畜伝染病防疫資材の総点検

高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の発生対策のため、畜産センターは、11,000着の防護服、3,730足の長靴、1,100個のゴーグル、7,200本の消毒液等防疫資材の備蓄基地となっています。1月には、資材の総点検の一環として、移動制限区域等の境界に設置する車輛消毒ポイントで使用する動力噴霧器の動作確認を行い、有事の際にすぐに対応できるように万全を期しています。



ガソリンを入れ替えて動作を確認



点検後の動力噴霧器 (31台)

(平成24年 1月 試験研究業務月報)

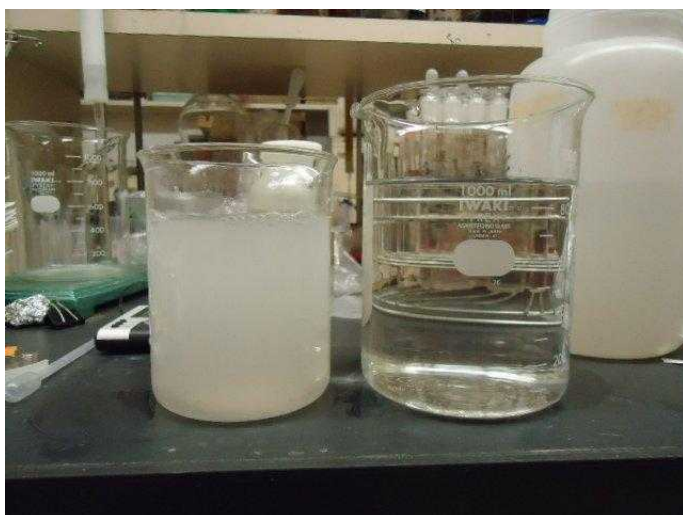
試験研究課題：新しい鶏卵洗浄技術の開発（排水域環境に負荷を与えない循環利用機能を備えた新たな洗卵消毒装置の開発）

研究

洗卵排水の浄化も可能な「消石灰を用いた鶏卵洗浄装置」の開発

卵選別包装システムの普及によって、洗浄・殺菌した卵の市場への提供が大きく進展しましたが、塩素系殺菌剤を使用するため、排水の浄化が課題であり、事業所周辺水域の環境悪化が懸念されています。

畜産センターと民間企業が共同開発した装置は、消石灰による鶏卵表面の消毒効果を既に実証していますが、排水浄化効果についても、きょう雑物等を沈殿分離した後に炭酸ガスで中和することで良好な水質となることが実証できました。



左：排水原水 右：浄化処理水



共同開発した鶏卵洗浄装置

畜産センター

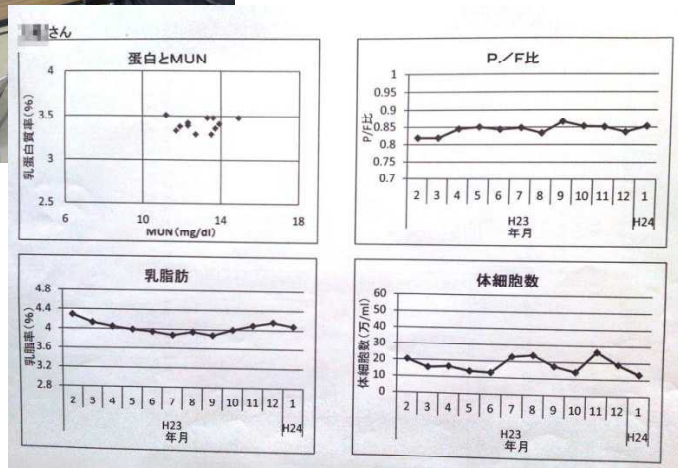
飼養管理に活かすための乳成分の読み方勉強会

－ J A 京都酪農部会研修会 －

酪農家が出荷する生乳は、月に3回、体細胞数や脂肪、蛋白質、MUN(乳中尿素態窒素)などの乳成分が検査されます。その数値から牛群の健康状態を把握し飼養管理に活かすための勉強会が、J A 京都酪農部会で行われ、当センターの研究員が講師を務めました。勉強会では、各農家の1年間の成績を見ながら、飼料給与など飼養管理の改善点・改善方法を解説しました。乳成分の推移は農家によって様々で、農家の実情に沿った質問などが活発に交わされました。



南丹市日吉町、京丹波町の
11農家が参加しました



農家ごとに配布した成績シート

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を強化

今冬も鳥インフルエンザが近隣諸国で散発しているため、畜産センターでは、鶏舎へのウイルス侵入を防止するため、鶏舎敷地全面の消毒を毎日行うとともに、防鳥ネットなどによる野鳥や野生動物の侵入防止、鶏の飲水消毒などの「病原体を持ち込まない」対策を徹底しています。また、鶏舎入口以外に本館への進入路に設置した消毒マットや玄関に設置した車輻消毒装置により全車輻の消毒を行い、三重、四重の防疫対策を継続しています。



本館入口の車輻消毒マット



本館前での車輻噴霧消毒



鶏舎入口に設置した自動車輻消毒装置



鶏舎敷地内の全面消毒(移動式動力噴霧機)

豪雪の猛威

一日降雪量開場以来第3位

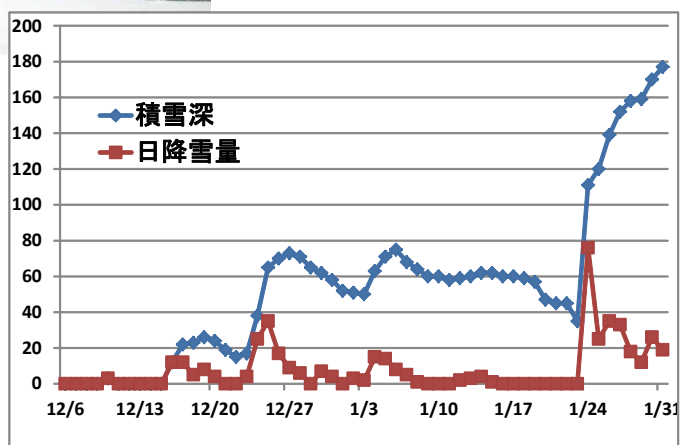
碓高原は、1月23日から大寒波が連続し襲来したため、豪雪となりました。

日降雪量は、24日朝に昭和54年の開場以来歴代3位の76cmを観測し、31日には積雪が177cmとなりました。この急激な降雪で、牛舎の屋根が破損したり、高さ15mの大きな松の約30cmの太い枝が折れるなど被害が出ています。

牛舎などの屋根の雪下ろしは、安全に配慮し行っています。



大量の着雪で枝が折れた
ふれあい広場近くの松



積雪深、日降雪量の推移 (単位: cm)